

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104117		
法人名	社会福祉法人 豊友会		
事業所名	グループホーム 豊田喜楽園		
所在地	山口県下関市豊田町大字中村819-1		
自己評価作成日	平成31年3月20日	評価結果市町受理日	令和元年 8月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に支え、共に生きる」の理念のもと、優しい言葉掛けと思いやりの心を念頭に、入居者様1人ひとりがその人らしく、今を大切に楽しい時間を過ごして頂けるようサービスの提供を行っています。24年度から続けている調理の日やおやつ作りの日は、入居者様と職員が共に手を動かして楽しく行っています。毎月のOKIRAKUカフェやサロンコンサートは入居者様の楽しみであるのはもちろん、ご家族や地域の方々との交流の場となっており、豊田下の地区の催し物として定着しています。夏祭りにはホームで制作した作品を出品したり、小学生が学習の成果を発表しに来たりと、豊田喜楽園が地域の一員として認知されています。これからも地域資源の1つとして認知症になっても安心して地域で暮らせる場所を備えるとともに、認知症介護の実際を見て触れて理解して頂ける拠点を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時のアセスメントシート(これまでの暮らし方や、好きなもの、嫌いなもの、趣味、苦手なことなど)を活用されている他、日々の関りの中で利用者一人ひとりに寄り添われ、言葉や表情、行動、めずらしいことや気になること、上手にできること、好きな食べ物等を介護記録に記録しておられます。その中から、利用者がどのように暮らしたいのか、何をしたいかなど、利用者の言葉にしづらい思いをくみ取られて介護計画を立てておられ、「その人らしさ」を大切に暮らしていただけるように支援に努めておられます。月1回、調理の日を設けられ、献立づくりから調理、後片付けまで、利用者職員と一緒に手づくりの食事づくりをされている他、月1回は、ずんだ餅やホットケーキ、餡蜜などのおやつづくりをされるなど、利用者が活き活きと活躍できる場面づくりを大切にしておられます。利用者のその人らしさを大切にして、一人ひとりのペースで過ごしてもらえるように、ケア目標である「気配り、目配り、心配り」ができていくかを職員間で話し合われ、共有されて支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念と基本方針をホームに掲示している。名刺サイズに印刷したクレドを名札に入れて携帯し、常に方針に即した介護が出来るようになっている。朝礼で理念と喜楽園基本方針を唱和し、意識の徹底に努めている。</p>	<p>法人理念と基本方針、事業所目標を事業所内に掲示している。朝礼時やミーティング時に唱和して確認している。月1回のミーティング時やカンファレンス時に「その人らしさ」を大切にしたいケアをしているか、ケアの際には目標である「気配り、目配り、心配り」をしているかを話し合い共有して、理念の実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内の産業祭初め、地区の納涼祭りにホーム内で作成した作品を展示したり、お祭りに出かけることで、地域の一員として施設が認知されている。月1回サロンコンサートやOKIRAKU喫茶を開催し、地域の方にも来て頂き交流を図っている。特に5月の喜楽園祭の出し物や出店をととても楽しみにして頂いている。</p>	<p>事業所は公民館に事業所便りを配布して、啓発に努めている。利用者は、地域の納涼まつりや産業祭に、共同作品や習字を出展して参加している他、神社の祭りや寺社の法話に出かけている。拠点の地域交流施設で毎月開催しているOKIRAKU喫茶やサロンコンサートに参加して、家族や地域の人と交流している。拠点施設合同で開催する夏祭りには、小中高校生の協力やボランティア(楽器演奏、歌唱、フラメンコ)の出演があり、家族や地域の人、子どもなどの参加があり、交流している。地域の神社に初詣に出かけ、秋には神社の神輿の立寄りがある。法人には「さわやかサポーター制度」があり、地域から300人のボランティア登録があり、畑を耕運機で耕してもらったり、拠点施設で開催しているOKIRAKU喫茶等の手伝いをしてもらっている。散歩時や買物時には地域の人と挨拶を交わし、小学生の登下校時には手を振り、花や野菜、果物、菓子などの差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。小学生や大学生の職場体験を受け入れている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>サロンコンサートやOKIRAKUカフェに来られた折に、福祉の豆知識として、認知症について等話をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	事業に携わる者全員が外部評価を通して、介護サービスの実践状況と事業運営を客観的に把握出来る機会として捉え、日常の業務の振り返りを行っている。外部評価結果や、改善策もミーティングで検討し改善に向けた取り組みをしている。	管理者は、月1回のミーティング時に評価の意義について職員に説明し、主任と話し合っ て自己評価を作成した後、全職員に回覧して話し合い、まとめている。職員にとって自己評価は日々のケアの振り返りとなっている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立てて話し合い、全員で自己評価に取り組むことや毎月「事故防止委員会」を開催して事故発生防止に努めているなど、具体的改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活、イベントの様子を載せた『スマイル通信』や、事業所で起こった事故報告を記載した資料を配布し、それぞれ内容についての説明をしている。そのうえで、ご家族はじめ、行政、地区代表、関係各位から貴重なご意見を頂きながらサービス向上に努めている。	会議は拠点の特別養護老人ホームと合同で、2カ月に1回開催し、利用者の状況や行事予定、活動状況、職員の研修報告、事故報告をして、話し合いをしている。参加メンバーから、「事業所便り」は利用者の日常の様子や行事の状況などを知ることができるので、地域にも配布してはどうかという提案があり、発信できるように取り組み始めているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず豊田総合支所市民生活課から、保険者を代表して出席していただき、サービス内容や事故対策等についてのアドバイスをいただいている。サロンコンサートや行事のパンフレット等を毎回担当者へお渡ししている。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、FAX、直接出向くなどして、情報交換や介護保険申請手続き、運営上の疑義について相談を行い助言を得ているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話、直接出かけるなどして、利用者等について情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所独自の「身体拘束0宣言」を作成し、一人一人が内容を理解し、抑制拘束を行わないで済む介護の技術と知識を身につけていくことを確認している。併せて、身体拘束防止委員会を開催。委員を中心に現場での拡大研修を行っている。	職員は「身体拘束適正化のための指針」を基に、拠点研修で学んでいる他、内部研修で6カ月に1回、身体拘束に係る事例検討会や3ヶ月毎に開催している「身体拘束防止委員会」を通して、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者とは職員と一緒に出かけたり、散歩をして気分転換を図るなどの工夫をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時には、管理者や主任が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修でも、ミーティングでも話し合い、意見交換もし、虐待防止について理解を深めている。対応の仕方や言葉使いに気を付け、入居者様の表情や発言など、些細な変化を見逃さないようにしている。職員の価値観や思い込みで対応しないなど、虐待・拘束が起こらないよう努力している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	業所に地域福祉権利擁護事業を利用している方がおられ、その方の生活に支障が出ないよう社協の担当相談員と連携している。もしもの時の相談は遠方にいる縁者に相談している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書などをもとに丁寧に説明を行い、同意書に署名・捺印を頂くようにしている。疑問点はしっかり答え、理解、納得して頂けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム苦情申し立て窓口を置き、また第三者委員会などを説明していつでも気軽に苦情など申し出て頂ける環境を作っている。また、苦情箱ではなく意見箱を設置している。入居者様からは、いつでもどの職員にでも言い易い環境を整えるよう配慮をしている。	相談、苦情の受付体制や外部苦情申し立て機関を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、行事参加時(クリスマス会、喜楽祭、クリスマス会、忘年会)、電話、手紙等で家族からの意見や要望を聞いている他、サービス向上のために無記名のアンケート(行事内容や職員の言葉づかいや対応等)を実施して聞いている。意見箱を設置している。利用者を担当している職員が、1ヶ月毎に家族に利用者の暮らしの様子を知らせて、意見が言いやすいやうに工夫している。意見や要望は、申し送りノートや介護記録に記録して、職員間で共有している。家族からサービス担当者会議に参加したいので、日程調整をして欲しいという意見があり、参加に向けて検討を始めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回面談を行い意見を聞く機会を設けている。また、毎月のミーティング・毎日の朝礼で意見が出しやすい環境を作っている。また、管理者の携帯は、いつでも気軽に連絡が取れるようにしている。	管理者は、申し送り時や月1回のミーティング時、カンファレンス、委員会活動(事故防止、褥瘡、感染症、認知症ケア、記録・接遇)、係り業務を通して聞いている他、半年に1回個人面談をして職員からの意見や提案を聞いている。主任を介して意見が挙がることもある。利用者がカラオケを楽しめるようにチューブの動画を楽しめる取組みや個別ケアの充実、台車の購入などの提案があり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などの機会を持ち、その時の意見や提案を参考にし、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関しては、勤務調整して受講しやすい環境を作っている。研修に関しては、情報はすべて回覧し職員に伝え、希望者はできる限り研修受講してもらっている。法人全体で必要時にはいつでも、経験年数の長い職員が個別の指導を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命を行い、内部研修で伝達して、全職員で共有している。今年度は、認知症ケアに求められる人材や地域包括システムの現状、認定事業者施設のリスクマネジメントなどの研修に参加している。拠点研修は、各委員会(記録、接遇、感染対策、事故防止、認知症ケア、身体拘束、虐待防止)において、委員長を講師に毎月実施し、主任が褥瘡ケアや感染症対策、リスクマネジメントなどを受講し、内部研修で伝達している。内部研修は、年間計画に添って月1回、管理者が講師となって実施している他、6カ月に1回、身体拘束防止委員が担当して、身体拘束防止について実施している。新人職員は外部研修、法人研修を終了後、日々の業務の中で、管理者やリーダー、先輩職員の指導を受けて学べるように支援している。資格取得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会。SNSでの情報の交換をはじめ、協会主催の研修に参加。他事業所のオレンジカフェ、運営推進会議に参加して同業者との交流と意見交換の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人のこれまで迎ってきた人生の話聞くことにより、入居に至った経緯を理解し入居してからも馴染みの関係づくりに努めている。不安のある利用者へは個別に対応し、日々しっかり観察し生活上の困っていることを把握するよう努め、安心して生活して頂けるよう図っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との話し合いを持ち、施設の方針等を理解して頂き、困っていること、不安なこと、要望などを聞きながら、ケアプランに反映することにより相互の信頼関係を築くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際しては総じて、本人の希望というより家族の意向、要望が強い。まずはご本人が安心して過ごせるように支援する。時には家族にも協力してもらいながら、ここで安心して暮らすための環境整備に注力する。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る居室の整理整頓や洗濯物を干したり、畳んだり是一緒に行い、おやつ作りや調理では職員が教えていただいたり、意見を出し合いながら、支え合いの関係を築き、信頼関係が生まれて、介助が一方的にならないよう努めている。昼食と夕食は、職員と一緒に会話を楽しんでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に、ご家族に本人の状態をしっかりと話す事を心掛けている。月1回請求書を送る際、グループホーム新聞『スマイル通信』と担当職員がご本人の様子を書いた手紙を添えている。5月の喜楽園祭、12月のクリスマス・忘年会では、入居者様、ご家族様、職員と一緒に食事をする機会を作り、関係を深めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は出来る限り制限せず、本人と家族や知人との外出の機会を多く作り、入居前からの習慣の継続や社会との繋がりを大切にしている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、教え子、農業仲間の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの商店での買物や道の駅、寺参り、自宅付近のドライブに出かけている。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や墓参り、外出、外食、外泊、一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮した外出や趣味活動を通じお互いに協力、支え合うよう支援し、生活にメリハリを持たせるようにしている。 食事の盛り付けなど入居者様同士で話し合いをして決めることも多い。 また、共同生活室で座る位置も、入居者様の性格や相性等考慮し、ソファを置く位置も互いに関わりが持てるよう工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去された、ご家族に施設での行事の案内や入居時の写真なども送り、関係性を大切にしよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員とケアマネが、ご本人の意向や思いを汲み取るよう努め、そして希望や気持ちを受け止めて支援内容に生かすよう取り組んでいる。本人の希望を中心とした暮らしが出来るよう柔軟に対応出来るよう努めている。	入居時にアセスメントシートを活用して、利用者のこれまでの生活歴や趣味、特技、食べ物の好き嫌い、暮らし方の希望などを記録して思いの把握に努めている。日々の関りの中で利用者に寄り添い、発した言葉や珍しいこと、気になること、上手にできること、嫌いなことなど、言葉、表情、態度を介護経過記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報や職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際にご家族より、生活歴や暮らしぶりの把握に努め、居室内に装飾や生活習慣等、本人らしさを残すことを大切にしている。入居後も、できるだけ情報収集するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、一人ひとりの1日の暮らしや生活リズムを把握するよう努めている。 また、ケアプランの内容を実施し、適切に支援できているかモニタリングしていくことにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを基に、ご家族様からの意見を聞き、職員が入居者様の現状を把握すると共に、カンファレンスを通じて問題点や改善点を話し合い、介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師、栄養士等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6カ月に見直しをしている。利用者や家族の意向、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度、見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃からの暮らしの様子や、食事、排泄等介護記録、経過記録に記入している。職員の気付きは申し送りノートを通じ、職員間で情報交換、共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況・要望を取り入れ、買い物等の外出には、その日のご本人の気分によつてのニーズに柔軟に、臨機応変に、対応できるよう職員間で話し合いをして支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を中心に、地域との情報交換が広がっている。近隣のスーパー、コンビニへの買い物や飲食店への外食など活用し、馴染みの関係を維持し、新たな関係作りにも取り組んでいる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診している病院をかかりつけ医にするか、事業所の協力医に代わるかは本人、家族に選択していただいている。その際のメリット、デメリットをよく説明して、なるべく希望に沿うように支援できるようにしている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医としている。他科受診を含めて家族の協力を得て受診支援をしている。受診結果は経過記録や健康観察記録、連絡帳に記録して、職員間で共有し、家族には面会時や電話で伝えている。利用者の健康管理は看護師が行い、状態の変化を見逃さず、主治医への相談、連絡を行い、協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算Iをとっており、主に看護師が入居者の健康状態の把握に当たっている。介護職員も日々の健康管理としてバイタルチェックや食事摂取量・水分摂取量・排便状況のチェックを介護職員で行って、入居者様の変化を見逃さないように気を付け、気になることや変化があった場合には、看護師に相談し、必要に応じて、主治医、家族に連絡し、早めの対応に心掛けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを入院機関に提出。必要に応じてさらに詳しい情報提供している。お見舞いに行く前に担当看護師、MSWと会えるアポを取り訪問。病状と今後の見通しなどを聞き取り、今後の家族の意向を踏まえた退院後のケアについて相談していける関係作りを心掛けている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応にかかわる指針」でここでなすべき介護支援については説明し、家族の同意を得ている。終末期の在り方については、ご家族と話しながら、医療機関と連携を図りながら取り組んでいる。	「重度化した場合の対応にかかわる指針」を基に、重度化や終末期に事業所のできる対応について、契約時に家族に説明をして同意書を交わしている。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医や看護師、栄養士と話し合い、方針を決めて共有し、医療機関や他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時の対応については、適切な対応を迅速にできるように月例のミーティングで話し合いをしている。事故防止委員会を併設の特養を共同で開催し、研修に参加している。	事例が生じた場合は、「事故、ヒヤリハット報告書」に原因、対応、予防策、家族への連絡を記録して、管理者を通して職員に回覧するとともに「事故防止委員会」に報告して、職員間で共有している。月1回のミーティング時に再度検討して、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。職員は、消防署主催の救急救命法とAEDの取り扱いの研修を受講し、事故発生時に備えて、リスクマネジメントの研修や窒息、インフルエンザ、食中毒、誤嚥について研修を実施しているが、全職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	木屋川の氾濫時、浸水想定域内に敷地があるので、隣の特養2階に垂直非難を行うことにしている。その他、緊急時対応マニュアルを整備し、年2回の火災避難訓練を行い、消火器の使用方法や入居者様の救出方法等学び、災害発生時等の緊急連絡網を整備している。	消防署の協力を得て、拠点施設合同で年2回、昼夜の火災を想定した通報訓練や避難訓練、消火器の使い方、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。レクリエーションの一貫として、避難訓練を利用者と職員で実施している。今年の豪雨時に避難場所である豊田生涯学習センターに避難したが、利用者にとって昼の生活は困難であり、拠点の特別養護老人ホームの2階に急遽、避難した経験をしている。地域住民や運営推進会議メンバーに訓練への参加を呼びかけているが、参加が無く、地域との協力体制を築くまでには至っていない。非常用食品は整備している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は入居様の家であり、居られなくてもノックして「失礼します」と声をかけ入室するようにしている。 接遇や守秘義務、コンプライアンスについても内部研修を行い理解を深めている。	職員は内部研修(接遇)や、管理者から「先輩として敬う言葉づかい」についての指導を通して学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の着替えを行うときなど、その日の気分で好きな衣類が選べるように援助している。髪の毛の生え際の白髪が気になっている入居者様には最近のカラーリング用品を家族に断わって購入して使ってもらったりしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうすれば入居者様の希望が実現出来るかに配慮している。食事の置き置きできる時間内であれば、朝ゆっくりベッドで過ごして頂いた後に朝食を摂って頂いたり、入浴の時間を変更したり自己決定できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている方が多く、ご本人様の希望に添えるよう、また、馴染みの関係が築けるよう支援している。普段から入浴後にカーラーを巻くのを一緒にして、髪をセットしたり、起床後には髪をとき、身だしなみを整えるのを支援している。洋服選びは、一人では混乱する方もおられ、その時には職員と一緒に選んでいる。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、テーブル拭き等それぞれの人ができることをして頂いている。盛り付けでは、どれをどの皿に盛り付けするときにいかなど職員と入居者様が話し合いながらしている。	食事は三食とも法人の配食を利用し、利用者に応じて形態の工夫をしている。利用者は、食事用ワゴン車の受け取りやテーブルを拭く、盛り付けなど、できることを職員と一緒にしている。懐かしい曲のBJMが静かに流れ、利用者と職員は同じテーブルで食材の話を楽しみながら食事を楽しんでいる。月に1回調理の日と、おやつづくりの日(ホットケーキ、ずんだ餅、あんみつなど)を設けて、利用者と一緒に献立から買物、調理(米を研ぐ、野菜の下ごしらえ)まで一連の作業に取り組んでいる。秋には秋刀魚を外で焼き、夏にはソーメン流しなど、戸外での食事やケーキの付く誕生会、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、鰻、年越しそば)、敬老会の食事、花見やドライブ時の外食、家族との外食等、食事を楽しむことのできる支援をしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託しており、併設施設の栄養士がバランス等管理している。入居者様1人ひとりに合わせ、状態を把握し、食事量や形状など工夫している。食事量・水分量は記録し、水分が少ない方には摂りやすいようお茶をゼラチンで固めた、お茶ゼリーを提供している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1ひとりに声掛けを行い、出来る限り職員見守りの中、ご自分で歯を磨いて頂いている。また、磨き残しや、ご自分でできない方は職員が口腔ケアを行い清潔保持に努めている。協力歯科医による研修も行った。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により、各人の排泄パターンを把握し、個別に声掛けをし、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を心掛けている。夜間のみ安眠のためオムツにしている方がいる。	排泄チェック表を活用して、利用者一人一人のパターンを把握し、習慣を活かして、利用者に合わせた言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防としては水分摂取量や食事形態、ヤクルト販売も利用したり、園内の散歩など適度な運動にも気を配りながら自然な通じを心がけている。それでも排泄チェック表で3日以上便通がないような方は主治医に相談し排便コントロールがうまくできるように看護の摘便を含め、薬を処方していただいている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本としては週に2回、曜日や時間をある程度決めてはいるが、ご本人の希望やその時の体調や外出の予定などに合わせて適宜対応している。温泉水での入浴を楽しみにされている方も多い。	入浴は毎日、13時30分から16時までの間可能で、週2日は入浴できるように支援している。温泉水での入浴で、順番や湯加減、好みの石鹸を使い、ゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には時間を変えたり、介助者の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や手浴、足浴、シャワー浴、部分浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもご本人や家族の希望、健康状態に応じリビングのソファや居室のベッドで休息して頂いている。 また、安眠できるよう入居前に使われていた馴染の枕や毛布を持って来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧をファイルにして、職員全員が飲まれている薬に対する理解に努めている。臨時薬が出た時は連絡帳に記入し、職員全員に周知している。服薬の際には、一人ひとりの名前、食前食後かを声にだし、確認している。口に入れるまで見届け、服薬ミスのないようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや畳み、料理盛り付け、カラオケ、塗り絵、折り紙、脳トレプリント、習字、トランプ、かるた、お手玉、卓球、グランドゴルフ、ペットボトルボーリング、体操など多くの選択肢を用意し、一人ひとりの好みに合わせた支援ができるようミーティングで内容検討を行い実践している。	掃除(掃除機を使う、掃く)、洗濯物干し、洗濯物畳、洗濯物の収納、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を換える、プランターの水やり、苗植え、草引き、畑の草引き、枝豆の収穫、新聞を読む、テレビやDVD、CDの視聴、新聞、本、雑誌を読む、日記をつける、俳句を詠む、法話を聞く、習字を書く、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、縫い物、カーテンを縫う、歌を歌う、カラオケ、かるた、トランプ、百人一首、壁画づくり、風船バレー、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、なぞなぞ、しりとり、四文字熟語、計算ドリル、漢字ドリル、季節行事(法人の祭り、敬老会、納涼花火大会、クリスマス、忘年会)、誕生日会、ドライブ、外出、OKIRAKU喫茶の利用、サロンコンサートへの参加等、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園内の散歩や車で買い物、食事ツアーなど、外出はご本人の意向を大事にし対応している。また、四季折々の風物に触れるドライブなどの機会を出来るだけ作っている。また、家族の協力を得て、ご本人の希望を聞き取り外出・外食など出掛けている。	周辺の散歩や外気浴、日光浴、季節の花見(桜、紅葉)、ドライブ(自宅周辺、川棚、角島)、初詣、寺の法話、虫見学、納涼花火大会、OKIRAKU喫茶の利用、外食等の他、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用、墓参り、一時帰宅等、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、居室に小遣いを置いて頂き、買い物に出掛けたり、週1回のパンの移動販売、ヤクルト訪問販売を利用し、一緒に品物を選びながら買い物の支援をしている。 月1回の併設施設で開催されるOKIRAKUカフェに出かけ、ご自分で好きなものを注文しお金も支払っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、事務所からご家族と電話で話が出来るよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居間の温度・湿度をチェックし快適に過ごせるようにしている。 窓を開け空気を入れたり、床暖房やエアコンを使用し、健康的な環境も保つように努めている。	リビングは大きなガラス窓から入る自然光で明るく、田園風景や花壇が見えて、季節の移り変わりを感じることができる。室内には季節の生花を飾り、大きなテレビや食卓、椅子、ソファがゆったりと配置してある。壁面にはパッチワークや行事の写真、利用者の共同作品である壁面飾り、習字等が飾ってある。温度や湿度、換気に配慮して、利用者が落ち着いて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に本や雑誌コーナーを設け、好きな時に読んで頂けるようにしている。ソファや食卓等、気の合った者同士が近くに居られるよう気を配っている。ご入居者様ごとのお気に入り場所を把握し、出来る限りその場所で過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具や寝具など思い出のあるものを持って来て頂き、一人ひとりが安心して過ごせる空間にしている。	テレビや冷蔵庫、机、椅子、小テーブル、衣装ケース、鎌倉彫の鏡台、小物入れ、時計、ぬいぐるみ、整容道具など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、絵画やカレンダー、家族写真、自作品のぬり絵や折り紙を飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下や浴室、トイレは手すりがあり、安全に移動できるようにしつつもご本人にできるだけ自分の力を使って頂けるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム豊田喜楽園

作成日: 令和 1 年 8 月 26 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	地域との協力体制の構築	風水害、施設の火事等の緊急時に救急救命、避難等の応援協力を要請できるご近所を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議参加の地域代表に施設の緊急連絡網に参加して頂く。 ・毎月行っているサロンコンサート、OKIRAKU喫茶に参加して下さる近隣住民の理解と協力を得る。 	12ヶ月
2	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続。	事故発生時に全職員が慌てることなく初期対応、各部署への連絡等、適切な対応が出来るようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・併設の特養と合同して行っている看護師による年に3回の事故防止検討委員会、2回の研修への参加を通して初期対応を学んでいる。また、研修へ参加できなかった職員へは、伝達講習を行い、全職員が理解し対応出来るようにする。 ・近隣病院主催の外部研修等に積極的に参加する。 	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。